

## 豊かな社会に貢献する新製品・ 新技術特集の発刊に際して

常務取締役  
技術本部長 柘植綾夫



豊かな社会に貢献する新製品・新技術特集の発刊に当たり、当社の技術に責任を持つ者として一言ご挨拶申し上げます。

当社では現在、“どのような環境にも耐えうる圧倒的技術力の構築”を掲げ、技術力の向上と新事業・新分野への取組みを重点課題の一つとして推進しております。

ご承知のとおり、アジア諸国、特に中国では、世界中から流れ込む膨大な資金と、各大学を中核とする産学官連携メカニズムのエネルギーポテンシャルと、そして急速に拡大する製造業群とにより、低迷を続ける日本の製造業とは対照的に目覚ましい発展を続けております。これら、中国や他のアジア諸国では、高品質かつ低コストで生産できる製品が増えており、当社でもこれらの地域での製造事業も推進するようになってきております。

一方、エネルギーを初めとする原材料の大部分を海外に依存しなければならない日本では、21世紀もそれらの資源を元にした“もの創り”を続け、その製品とサービスを必要とする世界の国々の方に提供していかなければなりません。

この一見相反する命題を解決するためには、“豊かな社会”すなわち、人類共通の課題である地球環境問題と水・食料、そしてエネルギー問題の解決、さらにはより快適な生活を実現する交通・社会システムへと、世界中の人々の要求にこたえる新製品を他の国より一歩早く生み出しながら、同時に次世代製品を可能とする新技術や先進技術の創造を継続するという“価値創造のサイクル”を回し続けることが必要であります。

日本の技術経営者にとって、このたゆまざる価値創造と、それを可能にする技術のイノベーション、そしてそれを活用した市場と顧客の求める機能、性能、信頼性を備えた製品とサービスの創出が、益々重要な任務になっていると考えます。同時に、これらの価値創造を担って

くれる技術者と研究者の人材育成、さらには個のオリジナリティーを組織の価値創造機能に結びつける技術経営も益々重要になってきています。

本特集では豊かな社会に貢献する新製品・新技術として、当社の近年の成果をご紹介します。

まず、当社創業事業であります造船を始めとします物や人を移動させる交通・物流の分野の新製品とそれに組み込まれた新技術を紹介します。

次に、火力・原子力・エンジンなどの基幹エネルギー、風車や燃料電池、バイオマスなどの新エネルギーなど、環境を考慮したエネルギー分野の新製品・新技術をご紹介します。

最後に、環境・社会分野で当社の幅広い製品群の中から15の新製品・新技術をご紹介します。

当社は、事業経営と技術経営の両輪のもと、技術者と研究者に挑戦目標を再発見させること産学官連携を実効あるものに構築することを目標に生き生き技術経営を進めています。

技術開発が“欧米追従型”から、自ら絵を書く“フロンランナー型”に変わらなければならない現在、21世紀の日本の活路を確かにするために産学官挙げての技術経営の新たな進化が問われているのではないかと考えます。このため、技術イノベーションに投資し、新技術を創出し、新製品開発に結びつけ、新しい戦略産業を創発するメカニズムの構築が必要であります。目的は何か、成果は何か、学と産は何を分担するのかを明確にし、アカデミアの研究を産業力に結びつけるロードマップを共有した21世紀型産学官連携の実現を目指します。

本特集号が次なる技術イノベーションへのロードマップと、21世紀型産学官連携構築にも貢献することを期待します。